

## 命の大切さを育む教育を刑法の見地からも

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先日、長崎県で女子高生が同級生を殺害するという事件が起きました。今日はそのお話を少しさせていただきます。この事件を受けて、命の大切さを育もうという話が随分とされています。もちろん命の大切さの教育はしなければならないと思いますが、私は大学で刑法や刑事訴訟法、犯罪学などを勉強したため、このような事件が起きるといったいどのような犯罪なのかということを考えてしまいます。
3. 16歳の子がやったことでも犯罪には違いありません。今回の事件はどんな犯罪にあたるのかと言いますと、刑法という法律の199条には「人を殺した者は、死刑又は無期若しくは5年以上の懲役に処する。」とありますので、殺人罪にあたるのではないかと思います。また、そのあとに死体を損壊していますので、これには190条の死体損壊罪があたります。「死体、遺骨、遺髪又は棺に納めてある物を損壊し、遺棄し、又は領得した者は、3年以下の懲役に処する。」とあるように、死体損壊は犯罪です。つまり、今回のように人を殺したあとに死体を損壊したときは、殺人罪と死体損壊罪の両方で罰せられる併合罪になると言われています。ですから、今回の事件は殺人罪と死体損壊罪の二つに渡る犯罪だと思います。
4. もちろん命の大切さは学校教育・家庭教育・社会教育等でしっかりと教えていただきたいのですが、このような事件が起きてしまったときには、どのような犯罪にあたるのかという観点からも考えていただきたいと思います。そして、このようなことは刑罰が伴う犯罪であるため、絶対にしないほうがよいのだという見地から、このような事件が二度と起こらないようにすることも大事だと思います。
5. ところで、開倫塾では今、夏期講習を行っています。そこで、塾生の皆様に「今回の事件を知っているか」「どのようにして知ったか」「どのように考えるのか」というアンケート調査を緊急に行いました。その結果、知らない方は誰もいませんでした。知ったのはテレビからが一番でした。また、皆さんにこの事件に対する考えをお聞きしたところ、次のような答えが返ってきましたので紹介します。

6. ある中学3年生の男子は「容疑者が命の重さを軽く受け止めていることに怒りを覚えた。犯人の女子生徒は正気ではない。以前、給食に毒物を混入させたときに適切な対応ができなかったことが、この問題に繋がったのだと思う。自分と年があまり変わらないため、恐ろしい感じがした」と言っています。この方はテレビとスマホなどで事件を知ったそうです。また、1人目の中学3年生の女子は「こうなってしまう前にどうにかできなかったのかなと思った。家族や学校、友達などが支えてあげられなかったのか、非常に残念に思う。15歳という多感な時期に、いろんなことが重なってしまったことが原因の一つなのだと思う」という意見を持っています。15歳は非常に多感なときで、ちょっとしたことにも感じやすいので、もしかしたらそのことが原因なのではないかということです。2人目の中学3年生の女子生徒は「友達なのになぜ殺してしまったのかわからない。好きだった友達を殺してしまったことはいけないことだと思うので、きちんと裁かれるべきである。自分だったらきちんと判断して行動し、このような犯罪はしないとと思う」という考えを持っています。3人目の中学3年生の女子は「仲のよい子を殺すなんて人としてありえないと思う。人を解体したいなんて思う人がいるのだと本当にびっくりした」という意見です。4人目の中学3年生の女子は「人を解体したかったという理由でやったとは思えない。本当はいやなことがあったのではないかと思う。日頃から学校生活において不満に思うことやいやなことがあっても、それを家族の誰かに打ち明けることができずに抱え込み、自分自身が不安になってしまったのではないかと思う。また、友達の中にも打ち明ける人がいなくてこんなことになったのかもしれない」という意見です。この方は新聞で知ったとのこと。5人目の中学3年生の女子は「自分の好奇心で人を殺すのはおかしいと思った。きっとその女の子は精神的に病んでいるのだと思った。毎日の生活の中で精神的に追い詰められていたのだと思う」という意見を述べています。別の中学3年生の男子は「わざわざノコギリやハンマーを買って普段仲のよい友達を殺して、そのあとに普通の生活がよくできるなと思った。人を殺してしまったら、罪悪感に押し潰されるのではないかと思う」と反省を促しています。また別の中学3年生の男子は「仲良くしていた友達を、人を殺してみたかったという理由だけで殺すなんて本当におかしいと思うし、しかも手などを切断するなんてありえない。こんな大変なことをして、何がいいのだろう」という意見を言っています。小学校5年生の女子は「残酷だと思う。人間に与えられた命は一回きりなのに、その命をつぶすということは美しい花を心なしにつぶすことと同じだと思う。人間を殺したかったからと簡単に殺すことはいけないと思う。もし自分がと思うと、なぜここで殺害しなければならなかったのかと悲しく思ってしまう。悲しい出来事だったと思う」という意見です。それから、中学3年生の方は「犯人の女子高生には精神鑑定が必要だと思う。小学生の頃から給食に洗剤を入れたり、小動物を解剖したりしていたらしいが、この時点で周囲の大人が対処すべきだったのではないか。まわりの大人にも責任があるのではないか」という意見を述べています。

7. 今日は、長崎県で高校生が同級生を殺害した事件が先日ありましたので、それについての私の考えと、アンケート調査での中学生・小学生の意見を少し紹介させていただきました。放送をお聴きの皆様も、身近な子供達とこの事件についてお話をなさっていただき、命の大切さや刑法という法律を守っていかうというお話をさせていただければと思います。